

**快適なリビング空間の暮らし方**

これらの調査結果から、マンションに暮らす方々も同様の家族構成やライフスタイルと思われ、おとな3人の『今』の暮らしを豊かにするとともに、熟年夫婦となる『将来』の暮らしを配慮したリビングを考えてみました。

今回の調査では、「おとな3人ぐらし」は各個室で過ごすことが多いのではないかと、この予想に反し、リビングを中心に過ごすことが多いとわかりました。それとともに、生活の中心となるリビングには各人が持ち込むモノが増えるため雑然となる傾向が多く、それが「妻の不満」につながりやすいと思われ、妻の「家族関係の満足度」には、夫や子の家事協力の度合いが影響することもわかりました。



キッチンを囲む壁がそこをお母さんだけの場所にしていました。壁を取り払って人に囲まれるみんなのキッチンへ。

**「おとな3人リビング」を快適に**

おとな3人が集まっても雑然とならずスッキリし、それぞれが心地よい居場所を確保しながら、家族の家事協力を促すリビング・ダイニング・キッチン空間について、次の3点を提案します。

**① 回遊型キッチン**

以前のプランでは、キッチンが近年ほどオープン型ではなく、家族の家事協力を促しにくい動線計画となっていて、どうしても妻が一人でキッチンに居ることが多くなるプランでした。同時に多人数が入りやすい二列型で、アイランド型シンクカウンターの廻りをまわれるキッチンに改装することで、子や夫が妻と一緒にキッチンに立つても動線交錯せず、キッチンを妻だけのスペースから家族みんなの場所へと変えます。

各自が片付けられ、家族の家事協力を促し、妻が「母親」役から解放されるだけでなく、お友達とのホームパーティでも楽しめるスペースになります。



一人ひとり専用の収納スペースがあれば散らかりがちなリビングからさよならできます。

**② パーソナルファニチャー**

リビング・ダイニングが雑然とならずスッキリとした居心地よさをいつも保てるように、省スペースで意匠性に優れた「パーソナルファニチャー」をリビング・ダイニングやマルチコーナーに設置し、自分のものは自分で整理できるだけの収納量を確保します。

リビングに人と一緒に集まる「モノ」を各自で管理し、片付けるための収納場所を作りましょう。

**③ マルチコーナー**

各自が好きなことをして長くいる場所は、個室ではなく「リビング」が多いので、隣接する和室をリビングに取り込み、透過性のある建具で仕切ると、人の気配は感じながらも個室のような居場所を設けることができ、空調域を限定できるので、省エネにもなります。

また、別に住んでいる子世帯が帰って来た時の宿泊室としても使えます。

リビング・ダイニング・キッチンの暮らしを見直して、「おとな世帯」の、より楽しく快適な関係性も実現しましょう。

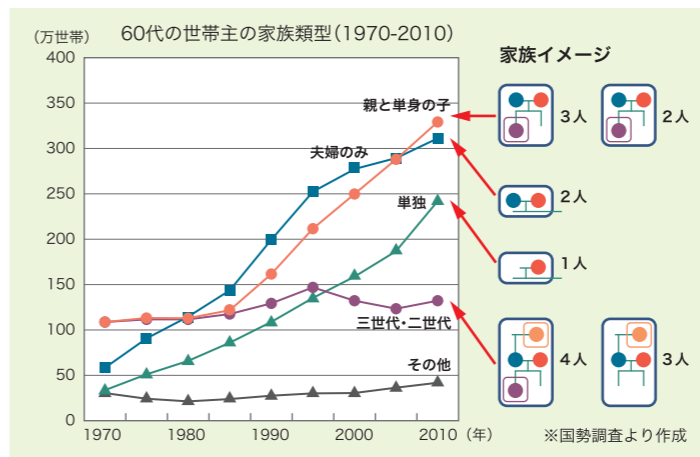
■ お問い合わせは、  
アフターサービスセンターまで  
TEL 0120-9337-558



食事のたびにダイニングを片付けるのは面倒。ちょっとこもれる場の工夫で、作業途中でも趣味道具の出しっ放しがOK。



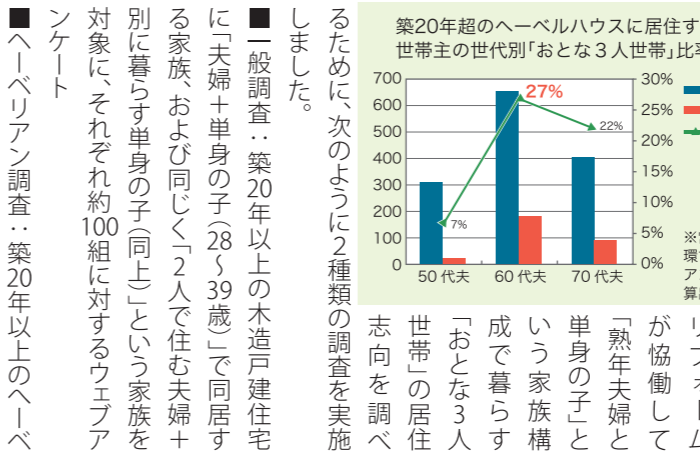
**おとな世帯のための快適なリビング**  
— 熟年夫婦と単身の子世帯の今と将来の暮らし方 —



**「親と単身の子」世帯の増加**

近年、晩婚化・非婚化・離婚率の上昇などが進み、ライフスタイルが多様化する中で、同居する家族構成も変化をみせています。2010年の国勢調査の結果によると、団塊世代を中心とする60代の世帯主の家族構成では、「夫婦のみ」で暮らす世帯より「親と単身の子」で暮らす世帯、いわゆる「おとな世帯」が多くなっています。

熟年夫婦と単身の子の同居が、近年増加しています。大人3人の家族は、どのような暮らし方をしているのでしょうか。小さい子がいる家族とは、違ってくるのでしょうか。今の暮らしの質をさらに豊かにして、熟年夫婦の将来にも配慮した、マンションでも応用できる「おとな世帯」に向けた暮らし方を紹介します。



**「おとな3人ぐらし」の居住志向**

旭化成が実施した「リフォーム訪問アンケート調査の結果から推計すると、リフォーム工事の主な対象となる築20年以上のヘーベルハウスの世帯主は60代前後が多く、60代世帯の約4分の1が「おとな3人世帯」と考えられます。そこで、くらしノベーション研究所と旭化成リフォームが協働して「熟年夫婦と単身の子」という家族構成で暮らす「おとな3人世帯」の居住志向を調査するために、次のように2種類の調査を実施しました。

■ 一般調査：築20年以上の木造戸建住宅に「夫婦+単身の子(28~39歳)で同居する家族、および同じく「2人で住む夫婦+別に暮らす単身の子(同上)」という家族を対象に、それぞれ約100組に対するウェビアンケート

■ ヘーベリアン調査：築20年以上のヘーベ

これらの調査の結果、次のようなことがわかりました。

- ・「おとな3人世帯」の両親は単身の子との同居暮らしを否定しておらず、夫妻・子とも同居の利便さ、安心さ、楽しさなどのメリットを感じている。
- ・「おとな3人世帯」でも、「別々に暮らす世帯」でも、一般的には家族関係に満足しているという回答が多い中、「おとな3人世帯」の妻に不満回答がやや多く見られた。
- ・「おとな3人世帯」の妻は、「夫婦のみ」の妻に比べ、モノが増えた雑然さに対する不満がより高い。
- ・「おとな3人ぐらし」でも、各自が好きなことをして長くいる場所は、「個室」ではなく「リビング」が最も多い。家族がそばにいる状況でそれぞれが、飲食・TV視聴などをしている。

